（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　すきっぷ美瑛2nd			
○保護者評価実施期間	令和　7年　2月　15日	～	令和　7年　2月　25日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	1名	（回答者数）	1名
○従業者評価実施期間	令和　7年　2月　15日	～	令和　7年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和　7年　3月　14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	野球支援	高学年を中心としたABチームに憧れが持てるよう、高学年は礼節や立ち振るまいに着目できるよう促し、その姿を見た下の子どもたちが、上のチームに入りたいという気持ちを芽生えさせ、目標設定を明確にする事で、意欲向上に繋げている。	子どもたちの気持ちを引き上げ、一部の利用児だけでなく事業所全体が盛り上がるよう取り組んでいく。職員間でも目的や意図を理解し、利用児へ伝えるべき大切なポイント（礼節・挨拶・仲間）を軸に共通の意識持って支援に努めていく。
2	外出支援、クッキング	利用児の興味関心を引き出す事ができる支援内容を全職員で精査し、計画を行なっている。	マンネリ化を防ぐためにも様々な情報を入手し、常に新たな内容を提供できるよう取り組んでいき、飽きさせない動きを意識していきたい。
3	保護者からの要望や対応	職員間で連携を図り、急な変更があった場合でも可能な範囲で保護者様のニーズに答えられるよう臨機応変に動く意識を常に持つよう心掛けている。また事前の確認など細かく確認する事で、確認漏れやミスが発生しないよう努めている。	より密な保護者様との信頼関係の構築を図り、状況なども踏まえたうえで適切な対応を心掛けいきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報の共有と報連相	情報に対して、共通認識にズレが生じている場面や言葉不足であったり、勝手な思い込みなどが発生してしまっている。	情報の発信を迅速に行なうと共に、全職員への落とし込んだ後にも、ズレが発生していないか常に確認のため、声を掛け合っていく。保護者様からの情報などの重要性を意識し、報連相を様々な業務でも取り組んでいく。
2	子どもたちを楽しませる療育	行事など以外の日常の活動や自由遊びの中で、子どもたちを楽しませる動きが不足している。	子どもと全力で一緒になって遊ぶ機会をより増やして行くと共に、ちょっとした利用児の行動や成功体験にもしっかりと目を向けるそこに対して、声掛けや気持ちを盛り上げワクワクドキドキした気持ちを育んでいく。子どもたちと関わる際の言葉遣いや表現は、よりいっそ気をつけ不信感につながらないよう取り組んでいく。
3	職員間での細かな連携	物の多さがスペースを狭めており、整理整頓の意識薄い。また玄関から支援室など動線が建物の構造の関係もあり死角が生まれやすい箇所が存在しており、現状各ポイントにスタッフを配置する事で全体の把握ができているが、ふとした瞬間に疎かになってしまいそうになる場面も見られている。	子どもたちが伸び伸びと過ごせる場を提供する為に、物の処分や整理整頓を常に意識しスペースを確保していく。また死角に関しては、引き続きスタッフを配置すると共に、連携の声掛けや自由遊びなど利用児と関わっている際に全体から目を離さないよう日頃から意識を持ち支援努めていく。